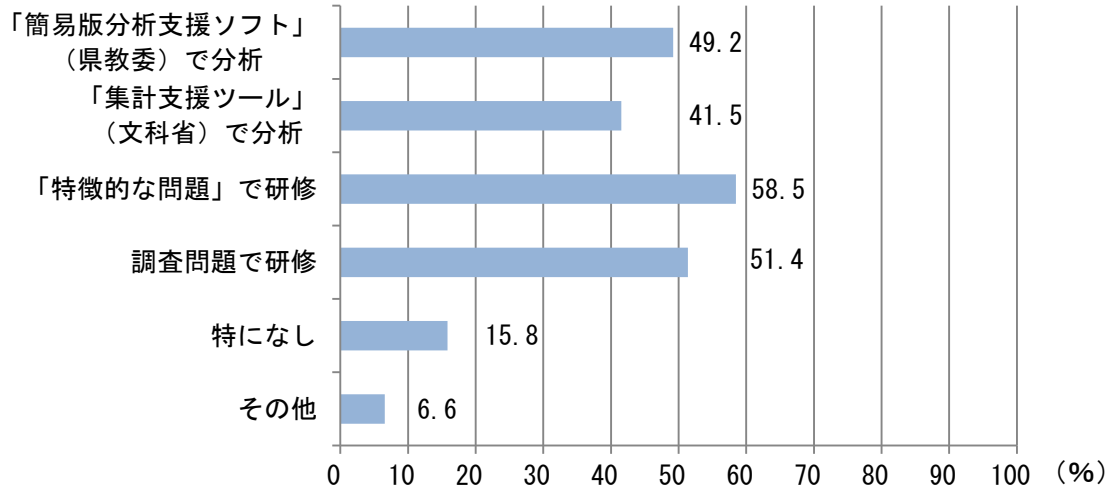
2019 年度　授業改善モニターアンケートの結果

令和元年 11 月実施

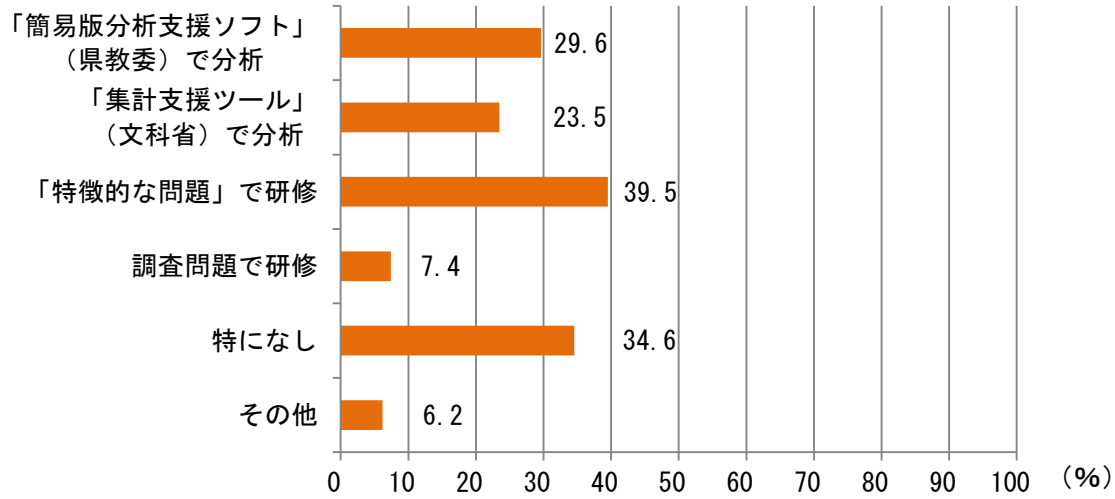
今回のアンケートでは、全国学力･学習状況調査の活用状況、及び富山県教育委員会から配布、配信している冊子やソフト、問題集等の活用状況について尋ねました。

1　全国学力･学習状況調査実施から、７月下旬に結果が公表されるまでの間に実施した取組について

小学校



中学校

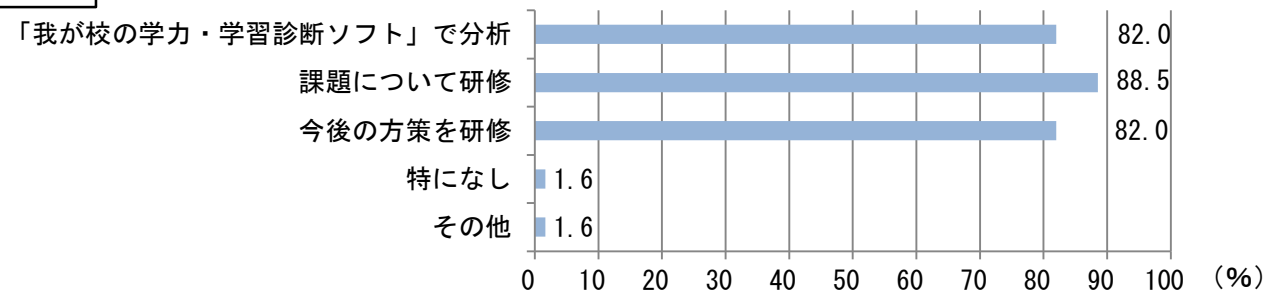


【取組例】

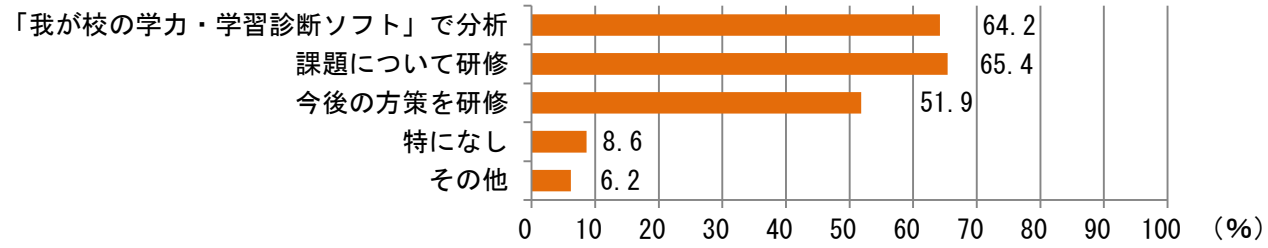
- 分析支援ソフトによる分析結果を基に、児童の課題、「特徴的な問題」を取り上げ、どんな力が必要であるか、その力を付けるために日頃どのような学習をすべきかについて研修会を行った。
- 「簡易版分析ソフト」の結果から、自校の児童の課題を早期に捉え、１学期のうちに学力向上対策や授業改善策を考え、実施した。
- 県教委主催の学力向上研修会に参加した際に学んだ「特徴的な問題」を踏まえた学習指導の改善や充実に向けた取組を、夏季休業中の校内研修会において伝達した。また、全教職員で「特徴的な問題」を解く機会を設け、各学年で身に付けるべき力を共通理解した。
- 「特徴的な問題」を再度授業で取り上げ、理解が深まるように生徒同士による学び合いを行った。

2　７月下旬に送付された全国学力･学習状況調査の自校の結果の活用について

小学校



中学校

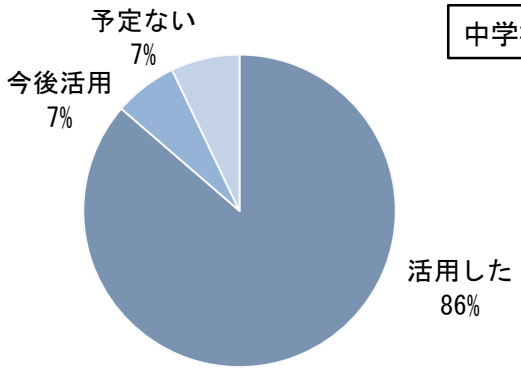


【取組例】
- 分析結果を基に、課題はどの学年の、どの内容なのか、また、どのような学力を付けるべきなのかを話し合い、具体的に各学年で２学期から取り組むことを共通理解した。
- アラカルト研修において、結果を全国、県、自校で比較し、自校の強みや課題を把握した。授業実践を振り返り、授業改善についてのアイディアを出し合い、２学期からの具体的方策について考えた。
- ８月の学力向上講演会に参加した教諭が中心となって、９月に伝達講習兼校内研修会を開き、全国学力・学習状況調査の問題を実際に解き、今年度の出題傾向を分析した。
- 学校だよりに、児童のよいところや課題とするところを明記し、今後の取組等について家庭に知らせた。

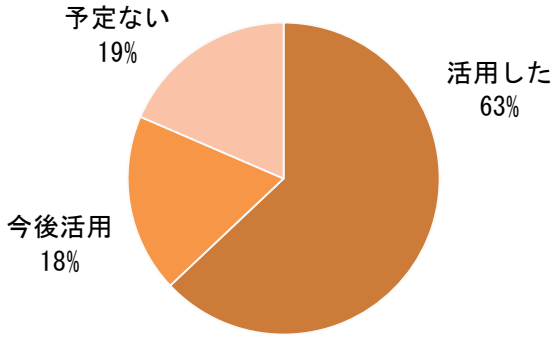
3　「我が校の学力・学習診断ソフト」について

(1)【教科に関する結果】について

小学校



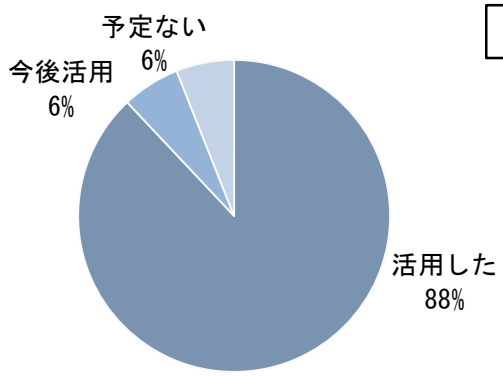
中学校



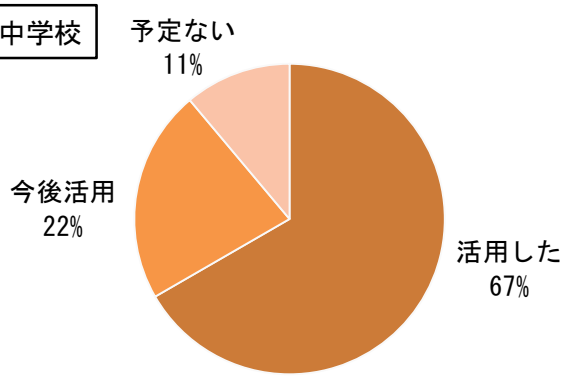
【活用例】
- 全国や県の結果と比較して自校の課題について全教員で共通理解をし、該当学年や全校で取り組む対応策について確認した。また、低学年から発達の段階に応じて系統的に育成していくことを確認し、各学年での授業改善の方策を探った。
- 誤答率の高い設問に関する単元を再度学習し、また、個別指導を行った。
- 結果を分析し、教科ごとに対策を考えた。中学校区の小学校と中学校の担当者が集まり、児童生徒の課題の傾向について話し合い、対策方法を検討した。

(2)【児童生徒質問紙に関する結果】について

小学校



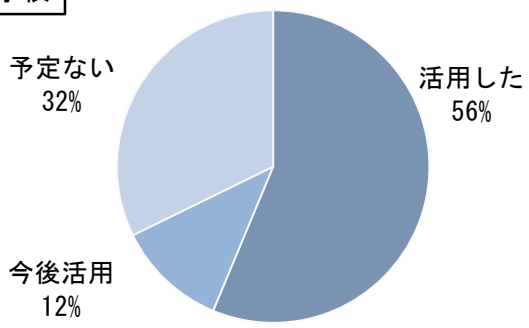
中学校



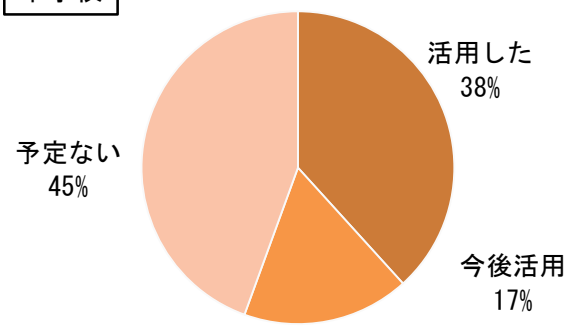
【活用例】
- 児童質問紙の自校の結果を全国と比較し、望ましい傾向にある項目と対策が必要な項目について、全体研修会で共通理解を図った。それを踏まえて学習規律やノートの書き方等、重点的に取り組む項目を決めて、２学期以降に共通実践を進め、教員、児童へのアンケートで成果を確認した。
- 学習課題や話合い活動、学習習慣等の項目を選んで、全校アンケートを取り、学期ごとに自己評価を行った。その結果を今後の授業改善に生かせるよう、全校体制で取り組んだ。
- 就寝時刻が遅いことが課題として挙がったので、保護者報告会で説明したり、学校保健委員会で生活リズムやメディアコントロールについて取り上げたりするなど、子供の生活習慣改善について、考える機会をもった。
- 児童の実態を把握し、学校と保護者の間で連携協力すべきポイントを把握するために研修会で共通理解を図った。

(3)【解答類型に関する結果】について

小学校



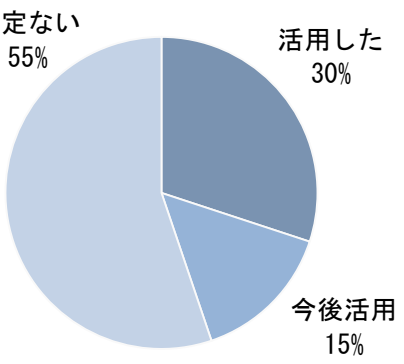
中学校



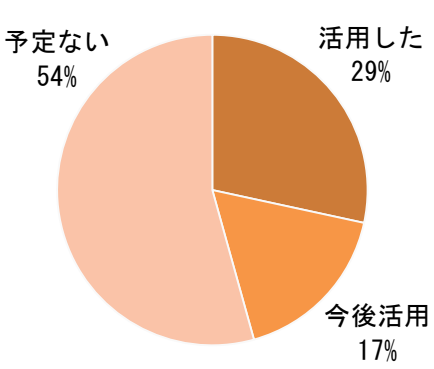
【活用例】
- どのような間違い方をしているのかを設問ごとに洗い出した後、誤答の類型ごとに指導方法を考察し、改善資料とした。
- 解答類型から自校の児童には複数の資料から情報を正しく読み取ったり、読み取った情報を基に自分の考えをまとめて書いたりする力が身に付いていないことが分かったので、学習の振り返りにおいて書く活動が充実するように取り組んでいる。
- 研究主任が国語科、算数科の正答率の低かった問題について解答を分析して、何学年のどの内容の指導を改善することにより、誤答が減少するのかを全体研修会で話した。それを踏まえて、グループに分かれて２学期からの授業をどのように改善していくのかを具体的に話し合い、全体で共通理解を図った。
- 「教科に関する結果」を分析する際に、課題がみられる問題の解答類型を確認し、どこでつまずいているかを捉えた。

(4)【平均正答率の推移】について

小学校



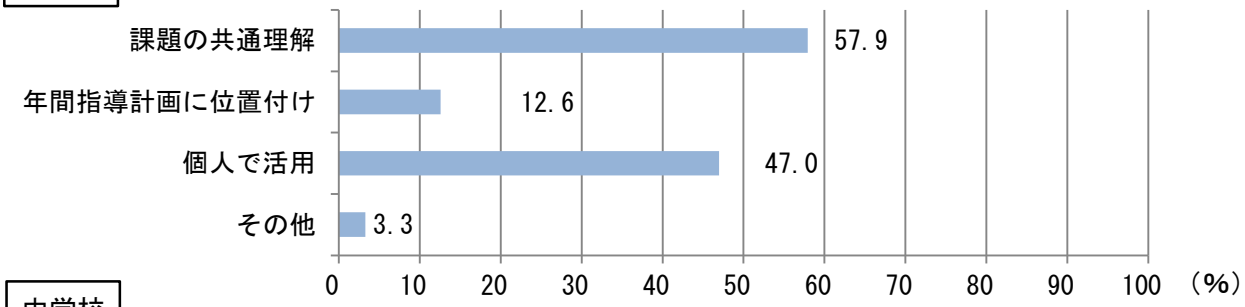
中学校



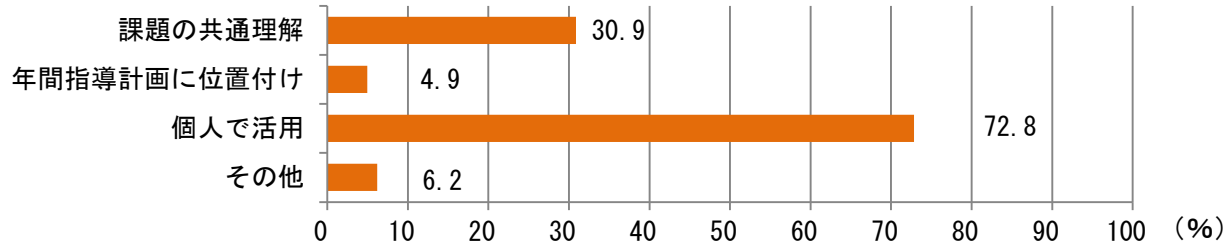
【活用例】
・経年比較を行い、本校の取組の成果と課題について話し合った。特に落ち込んでいる学習内容については共通理解を図り、指導法の改善について協議した。
・本校の学力向上の取組の成果を追跡して確認した。

4　「平成 31 年度（令和元年度）　対策のヒント」の活用について

小学校

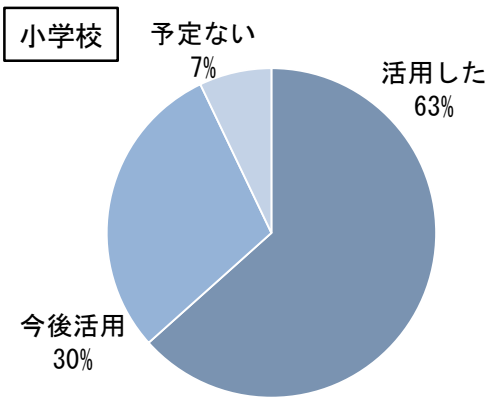


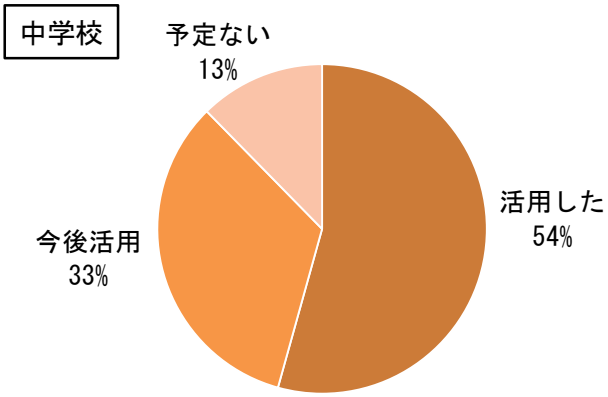
中学校



【活用例】
・当該学年で指導が必要な箇所に付箋を付けたりマーカーを引いたりした冊子を各学年に渡し、各学年の学習で意識して取り組んでいる。
・課題がみられた問題の概要と指導のポイントを知り、担当学年のどの単元と関連付けてどのように指導するとよいかを見通し、指導の意識化を図ることで、縦断的な指導の積み重ねができるようにした。
・課題のある問題について、教科書の単元と関連付けて、授業で取り組んだ。
・授業アイディア例を、授業の中に取り入れた。

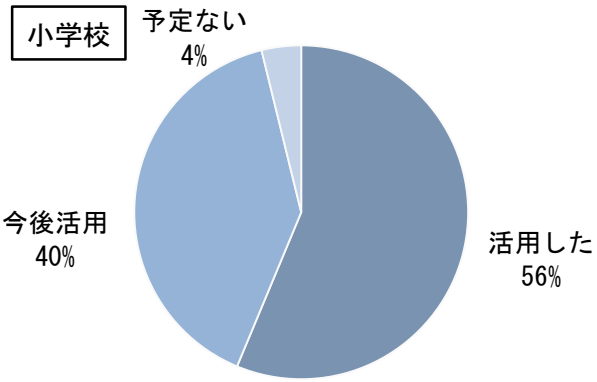
５　「平成 31 年度（令和元年度）　全国学力・学習状況調査報告書（富山県版）」の活用について

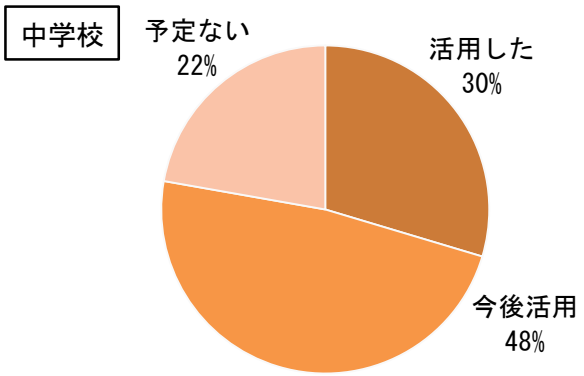




【活用例】
- 「Ⅲ教科に関する調査結果の分析」の「学習指導上の留意点」について研修会で取り上げ、児童の実態や学習内容に応じて「指導のポイント」に沿った指導をしていくことを共通理解した。
- Ⅲ～Ⅵの主な項目を全員に印刷・配布し、共通理解を図った。Ⅲについては、誤答の傾向から児童がつまずきやすい箇所をつかみ、「指導のポイント」に記載されている活動を授業に取り入れるとよいことを確認し合った。Ⅵについては、「改善の視点とポイント」を読み、課題に応じた改善のポイントを再確認した。
- 質問紙の内容について、全国、県と自校の結果を比較し、改善すべき点を検討した。また、考察を参考にして、自校の改善策を検討した。

６　「単元確認問題」の活用について

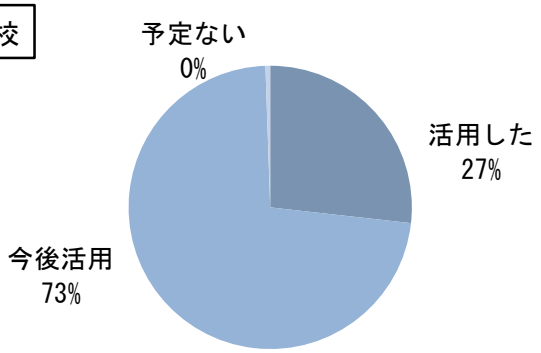




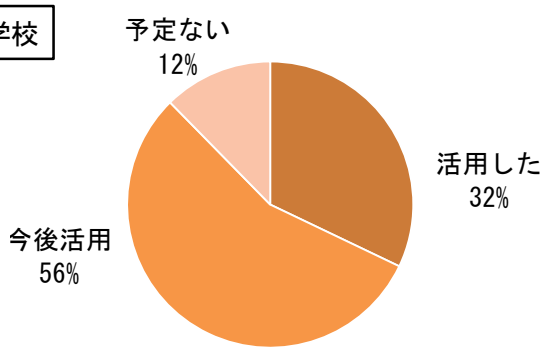
【活用例】
- 一括ダウンロードし、ファイリングして、いつでも使えるようにしている。単元の終わりに活用し、学習内容の定着を図った。また、長期休業に復習プリントとして配布した。解答も合わせて配布し、自己採点できるようにした。
- 朝の学習タイム（１５分間）や学習の隙間の時間に適宜行ってきた。
- 前学年のレディネステストとして、また、当該学年の単元終末の確認テストとして、短時間で利用している。
- 各学年の裁量で、家庭学習に利用したり、単元のまとめの問題として授業の中で解き方を解説したりするなど、基礎的・基本的な学習内容の定着に役立てている。
- 全て印刷して自習教室に置き、いつでも自由に選択して取り組めるようにした。

7　「Ｂ問題に挑戦（H26～R 元年度）」の活用について

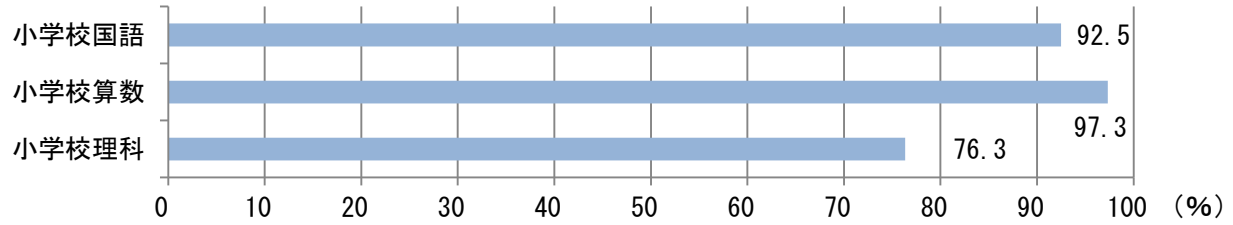
小学校



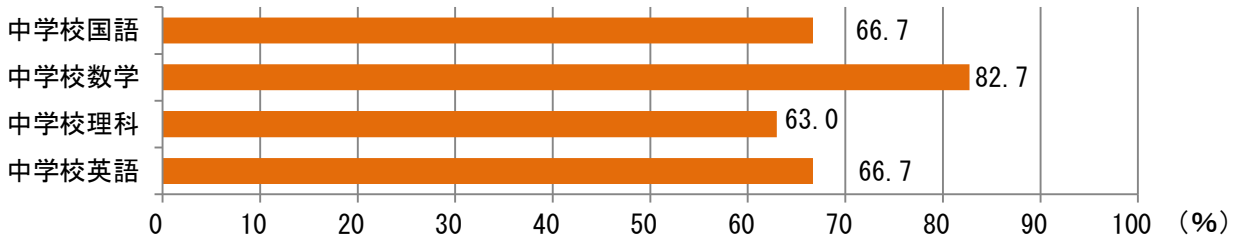
中学校



小学校



中学校



【活用例】

・ペアやグループ学習で、自分で解いたり、教え合ったりした。類似した問題を作成し、定期考査で出題した。

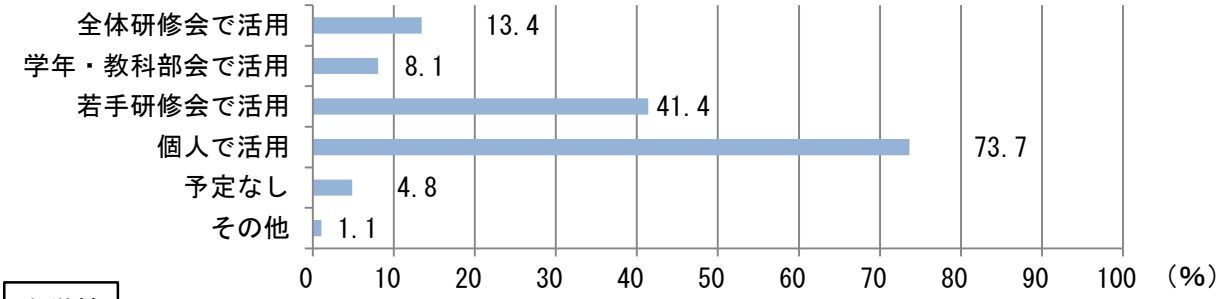
・３、４年生の学習内容でも解くことができる設問を取り上げ、学習の終末時に応用問題として取り組んだ。言葉で説明する問題であっても、意外に既習の知識で解くことができることに児童が気付き、自信につながった。

・単元確認問題同様、印刷して朝の自習教室に設置し、力を伸ばそうとする生徒が自由に選択して取り組めるようにした。

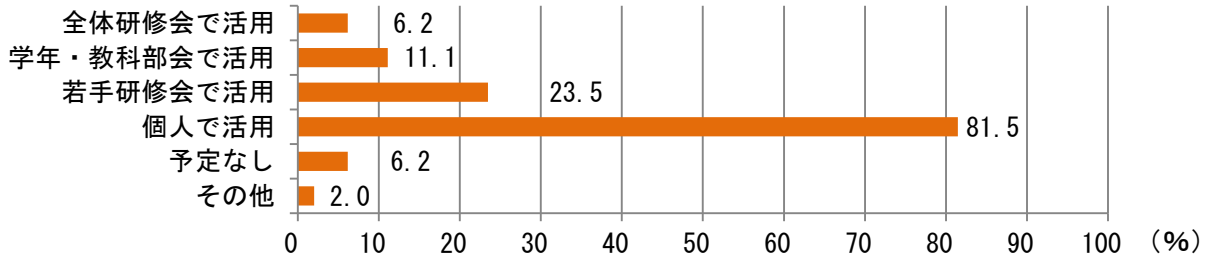
・学期末等の復習や家庭学習の課題に活用した。知識を活用する力が身に付いているか把握することができた。

8　「『授業の達人』授業 DVD」の活用について

小学校



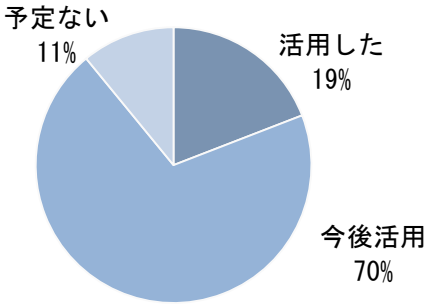
中学校



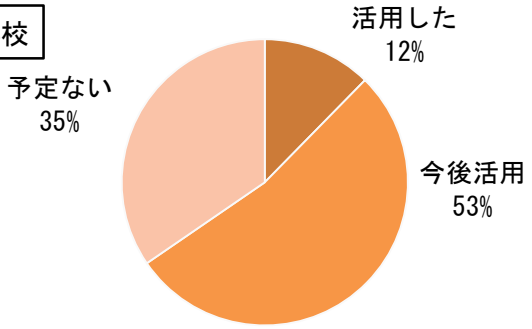
【活用例】
- 若手研修会で、授業研究の参考となる場面を視聴し、意見を交換した。教科指導の工夫、生徒指導や学級経営等、多くのよさに気付くことができた。
- 中学校区の小中連携若手研修会で視聴し、それぞれの立場から授業改善のポイントや学力向上に役立つ指導法について話し合った。
- 中学校の英語の授業を視聴し、６年生の外国語活動の学習とのつながりを意識して学習内容や展開を考えるようになった。

9「全国学力・学習状況調査　設問別ワークシート」（H25～H31 調査問題分）の活用について

小学校



中学校



【活用例】
- ３～５年生にも解ける問題があるので、単元のまとめとして活用した。どのように答えればよいのかを考える機会となった。
- 学期末に、正答率の低かった問題をもう一度取り上げて、重点的に指導をした。学年末には、進級に向け、学習内容の定着を図ることができる。
- 朝学習で取り組む際には、解いた後にグループで答えを説明し合う場を設けた。解くことができた児童にとっては説明することで更に理解が深まり、解くことができなかった児童にとっては分かるまで説明を聞くことのできる場になった。